

ズーム・アップ・カメラ・アイズ

稲佐山の新たな乗り物「長崎稲佐山スロープカー」

(長崎県長崎市)

Consultant 会誌編集専門委員会

上海やモナコとともに「世界新三大夜景」に再認定された長崎。標高333mの稲佐山の展望台からは長崎の街や港を一望できる。そこに新たなアクセス手段が2020年1月に誕生した。中腹の駐車場から山頂までの全長約500mを8分程で結ぶ「長崎稲佐山スロープカー」である。

スロープカー（跨座式斜面走行モノレール）は、よく林業などの急斜面で見かける運搬用のモノレールを大きく高級にしたものといった印象だ。もちろん乗用のため快適性は格段に優れる。つるべ式のケーブルカーやロープウェイと違い、2レーン設置されているが連

動しているわけではなく、単独での運行が可能だ。それはスロープカーに駆動装置が付いているからだ。輸送量が多くなると2レーン同時運行も可能だが、利用客の状況にあわせてレーンの数を調整し自動運行されている。ちなみに、日本の法律上はエレベーターに分類されている。

また、最大で約20度の勾配変化があっても床面を水平にする装置やエアコン、BGM、車内照明などが設置された全天候型の車両である。定員は1車両40名の2両編成。9～22時に15～20分間隔で運行され、大人往復500円（片道300円）である。車両は長さ6.25m、幅2.5m、高さ2.3mだ。

長崎市は2012年10月の世界新三大夜景都市の認定を受け、稲佐山の展望台への来訪者増に対応するため、中腹の駐車場から山頂までのアクセス向上を目的に「長崎稲佐山スロープカー」を整備した。

既に稲佐山には麓と山頂を結ぶ長崎ロープウェイがある。しかし、近年は観光客が急増し、1時間待ちとな

るような混雑も珍しくなかった。また、ロープウェイの定員は31人であり、修学旅行生やバスツアーなどの団体客を一度に輸送できる手段が必要となっていた。

2015年度、長崎市は多くの利用客を運ぶ新たな方法として「①山頂までの既存道路を大型バスも通れるように拡幅する」「②エスカレーターと動く歩道を整備する」「③スロープカーを整備する」の3案を検討。①は工事が長期間になる点が、②は工事費がかさむ点が懸念され、③はスロープカー自体が稲佐山の新たな観光資源になるとも考えられるため、翌年度にスロープカーの導入が決定した。

長崎市はスロープカーが走るレールや支柱、駅舎などの設計を、コンセプトや景観を統一するために一括して株式会社トーニチコンサルタントに委託した。ルートは尾根上に設定された。尾根には既設の遊歩道があり、施工時に木を極力切らずに済む。また、尾根は見晴らしも良いからだ。

設計の過程では、関係者全員が現地を視察してルートや見え方を検証し、支柱の高さは最大で約14mに抑え、車両も駅舎も隔てず、稲佐山全体を味わう一連のプロセスとしてデザインした。移動自体を楽しんでほしいとの願いだ。

車両のデザインは、ロープウェイと同じ工業デザイナー奥山清行氏が代表を務める株式会社KEN OKUYAMA DESIGNが受託。稲佐山の自然が主役となるように樹々の上を走るイメージで、車体には周りの樹々や風景が映り込み自然と一体化し、全面ガラスのスタイリッシュ性や連結部のメカニズムの面白さなど、乗る体験そのもののデザインを目指した。確かにスロープカーは乗っていて楽しく、また乗りたい気になる。

山頂駅のプラットホームは7mも空中に張り出し、スロープカーで上ってきた人々を迎える。山の稜線に沿うように高さを抑え、ランドマークとなるようにしている。

スロープカーは尾根を上るため、東側に市街地を、西



2レーンあるルート



2両連結の車両



レーン下の遊歩道



稲佐山スロープカーと長崎港の眺望

側に海を望むことができ、左右非対称の景色が楽しめる。もちろん夜景を楽しむこともできる。

また、スロープカーに沿ってレール下に階段の遊歩道も整備されているので、下りは歩いて下山することも可能で、頭上をスロープカーが走るのを眺めることもできる。スロープカーの整備により稲佐山周遊ではロープウェイと合わせて2種類の乗り物体験が可能となり、魅力的なスロープカーはお勧めの乗り物である。

(文 塚本敏行)

<取材協力>
1) 長崎市土木部土木総務課

<参考資料>
1) 「稲佐山公園 スロープカー整備事業概要」長崎市土木部土木総務課
2) 「日経クロステック (xTECH)」ホームページ (https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/mag/ncr/18/00013/073100020/)
3) 「稲佐山公園」ホームページ (https://www.inasayama.com/slopecar/)
4) 「都市の鍼治療データベース」(https://www.hilife.or.jp/cities/data.php?case_id=231)

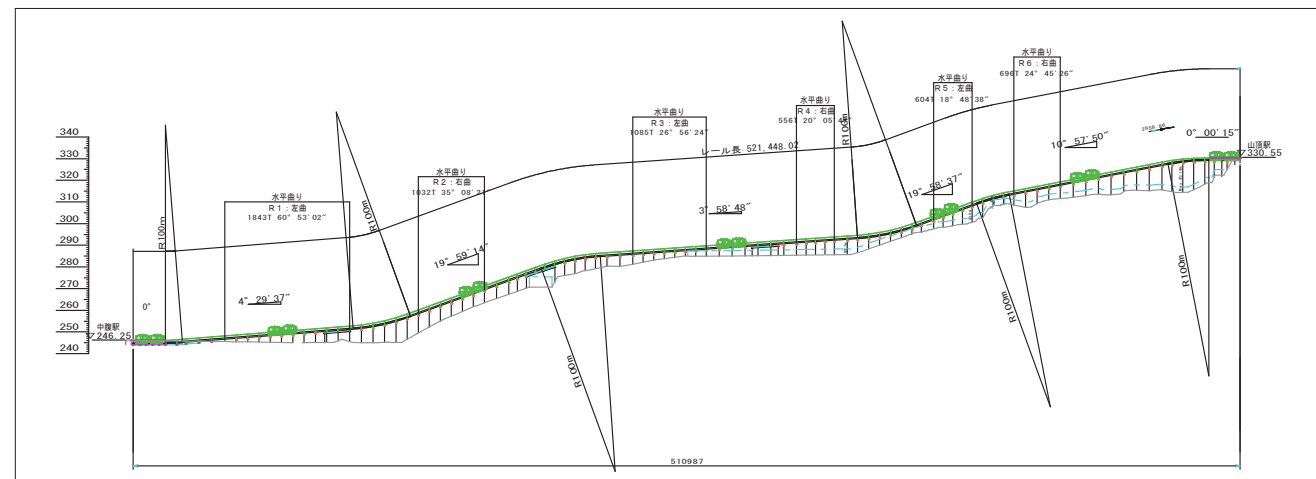
<図・写真提供>
P42 中左写真: 井村優花
P42 下図、P43 中写真: 長崎市土木部土木総務課
P43 上左写真: 塚本敏行
P43 上中、P43 上右写真: 児島正之



風景が映り込む車体



稲佐山公園 園内マップ (現地案内板)



縦断面図